

防護柵改良工の作業手順書

制定・改定日 2022.7.11

項 目	内 容	留 意 事 項
準備工	<ul style="list-style-type: none"> 作業内容、規制内容の確認 作業人員の確認 保護具の確認 使用機械、資材、工具の点検、車両配置の確認 光通信ケーブル等損傷事故チェックリスト(2/5)(3/5)の提出 	<ul style="list-style-type: none"> 指示書の内容確認 安全打合せ書による、KY活動 作業別安全チェックシートの活用 クレーン付トラックのアウトリガー最大張り出し、敷板の確認。
試掘	<ul style="list-style-type: none"> 埋設ケーブルがある場合は、損傷防止の為、必ず試掘を行う。 埋設標を設置する。 光通信ケーブル等損傷事故チェックリスト(4/5) 試掘結果報告書を提出し施工許可を受けてから作業する。 	<ul style="list-style-type: none"> 関係部署の立ち会いのもと、埋設管を傷つけない様に、人力にて掘削を行う。 立ち会い者が来てから作業を行う。 埋設ケーブルを確認した後、土のうにて埋め戻しをする。
支柱打ち込み・建込み	<ul style="list-style-type: none"> 支柱は、打ち込み機を使用し所定の高さまで打ち込む。 打ち込んだ支柱は、高さ、方向を確認する。 加工処理を行った箇所は、常温亜鉛メッキ防錆処理材をスプレーする。 割り付け位置にベースプレート支柱を建込む。 	<ul style="list-style-type: none"> 埋設ケーブルが近い場合確認、防護を行いながら打ち込みする。 ハンマードリル・削岩機使用時の巻き込まれに注意する。 飛散防止処置を行う。 保護具・保護メガネの着用。
防護柵取付	<ul style="list-style-type: none"> ガードケーブルを緩め既設の支柱に束ねて結束し本線にはみ出ないようにする。 支柱、ガードレール等の取付を行う。 加工処理を行った箇所は、常温亜鉛メッキ防錆処理材をスプレーする。 	<ul style="list-style-type: none"> ガードレールを持つときは、声を掛け合い姿勢など十分注意をする。 重量物を取り扱う時は、複数的人数で持つか、ユニックを使用する。 クレーン等の作業半径内は十分注意し有資格者による作業を行う。 保護具、保護メガネの着用。
既設防護柵撤去	<ul style="list-style-type: none"> 既設のガードケーブルを撤去する。 	<ul style="list-style-type: none"> ケーブルの跳ね返り等を十分確認し注意する。 整理整頓し一カ所にまとめて置く。 ボルト、ナットの飛散防止を行う。
既設支柱撤去	<ul style="list-style-type: none"> 支柱は抜柱機又は、支柱の根本へワイヤーを掛けクレーンを使用してゆっくり引き抜く。 引き抜いた支柱穴の埋戻し。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き抜き用のワイヤーは、使用の都度点検する。 引き抜き支柱の飛び上がりに注意し、作業員は不用意に近づかない。 また、近接に道路施設等構造物がある場合は、コンパネ等で防護処置を行う。 クレーン付トラックのアウトリガー最大張り出し、敷板の確認。 コンクリートシール箇所の光ケーブルにアウトリガーを設置しない。
発生材の片付け	<ul style="list-style-type: none"> 発生材検測を行う。 発生材をトラックに積み込む。 	<ul style="list-style-type: none"> クレーン等の作業半径内は十分注意し有資格者による作業を行う。 吊り荷の下へは絶対に入らない。 必ず二人以上で作業を行う。 吊り荷の確実な玉掛け。 積荷の飛散防止。最大積載量の確認。過積載の禁止。
後片付け	<ul style="list-style-type: none"> 使用した道具、機材、余った材料を片付け、最後に竹ぼうきで清掃する。 取替数量の確認できる写真をとる。 	<ul style="list-style-type: none"> 使用した道具等は、現場に忘れ物が無いように確認する。 ボルトの一本まで落ちていないか確認する。

作業編成(標準)			機材		資材	安全器具・保護具	
作業責任者	1	名	ラジエツト	スコップ	防護柵材料	ヘルメット	保護メガネ
現場監視員	2	名	ワイヤー	大ハンマー		反射(自発光)チョッキ	防塵マスク
作業員	10	名	帯	発電機		反射スパッツ	防振手袋
			落ち込み機	削岩機		発煙筒	耳栓
			インパクト			黄旗	安全靴
						警笛	

※現場で作業手順を変更する場合は作業を中止し、作業責任者からメンテ名古屋担当者に報告・相談する。

■注意事項(共通の指導事項)

- 1.機械作業は、有資格者が操作を行う。
- 2.ガードレール等重量物は、足などへの落下に十分注意をする。
- 3.取り外しの時は、特に方向、跳ねに注意をし必ず声を掛ける。
- 4.通信ケーブルの確認は必ず行い、立ち会い確認を受ける。
- 5.吊り荷の下へは絶対に入らない。
- 6.ワイヤーの点検をする。
- 7.手持ち式振動工具については取扱を十分理解し、使用する。
※火気の取扱いに注意。消化器の設置
- 8.一人作業の禁止